

す。

筆者(住職)は前号で、アデナウワー元ドイツ首相の「神は人間の賢さに上限をもうけたも

うた。しかし人間の愚かさには下限をもうけたまわなかった。」という名言をご紹介しましたが、殺し合いの連鎖から抜け出すことのできな

い人間の愚かさ、悲しさを思うことです。

さて、パリに留学しているある日本人青年の話です。彼の友人のある若いアメリカ人夫婦が

やつて来て、一夜の宿を乞うたそうです。氣のよい彼はこの狭い部屋に、三人も泊まられない

アパートに帰って見たら、「一夜の宿を恵んで

くださった神さまに感謝します。」との置手紙がしてあつたそうです。

私はこちら辺に何か問題を感じるのです。神さまに感謝するのは結構ですが、あまりにも、ひとの気持ちに無関心

思いますか？」と尋ねたら、「どう云う答えが返ってくるでしょうか？

失礼ですが、おそらく「とんでもない、私は、神さまのおかげを受けて生きており、それを世界中に広めようとしているのだ」と言うのではないかと思

いますか？」と尋ねたら、「どう云う答えが返ってくるでしょうか？失礼ですが、おそらく「とんでもない、私は、神さまのおかげを受けて生きており、それを世界中に広めようとしているのだ」と言うのではないかと思

か、それとも神こそ人間の失敗作なのか」と

言ったそうです。この悲しい現実を生み出している人間の愚かさは、「神が創った私たち人間の逃れられない運命」

なにか、はたまた、「愚かな人間でありながら、その愚かな理性をもって人間が作り出した神」という存在であるにもか

に救いを求め、それに支配されているがゆえに

起きた悲しい戦いなのか。無神論者ニーチェは、神を否定し、さらに人間理性も否定するのですが、ここには神と人間に対する深い絶望と

悲しみがあらわれているとあなたは思いになりませんか？ 「善いことでも、まわりを見てやりなさい。本当のことも、相手のことを考えて言いなさい」天台宗米国開教総



去る8月20日行われた、夏の集いでの人形劇の様子。黒豚のクロちゃんと狐のコン太がケンカをする話。劇の終わりに出てきたコリン先生(コリン星から来たらしい)は、「ケンカになるのは、(相手だけではなく)私にも悪いところがきっとあるからだ」と教えてくれました。(於蔵本通支坊)

長であつた、荒了寛さんの言葉です。自分(人間)の立場を絶対化しない、自分の信ずる「宗教」の現実を深く問い直す、このことこそ大切ではないでしょうか？私は仏教からこのことを学びました。六十年前に戦争協力した宗門人の一人として、また仏教徒として、自らこのことを大切にしたいとゆきたいと思

います。 仏教徒、特に浄土真宗門徒の生活は、自分の責任です。み教えを人生の灯火としつつ喜びの人生を送るか否かは、自分の責任です。ですから大変です。どうぞ落慶記念法座で、ともにお聴聞しましょう。